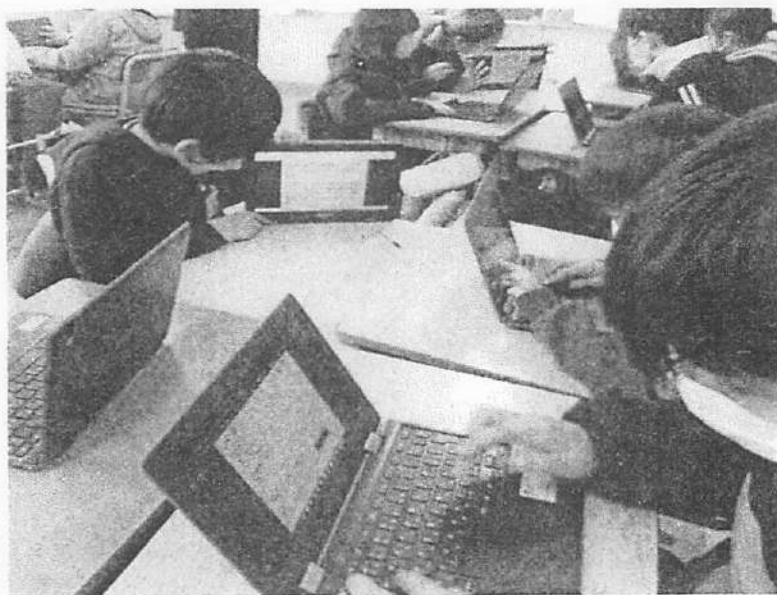


社会とつながりこれからを考える児童の育成
～副読本の在り方と効果的な活用の仕方～



1 研究主題

社会とつながりこれからを考える児童の育成

～副読本の在り方と効果的な活用の仕方～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

変化の激しいこれからの時代を生き抜く子供たちに対し、学校教育には、「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を概念的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。」が求められている。次世代の社会の創り手である子供たちに確かな知識を獲得させ、その知識を総動員し、社会事象に向き合い、社会を構成する一人として何ができるか、どうするべきかという問いに答えようとする児童を育成する社会科学習を目指している。

このことを受け、3年生での学習では、子供たちが地域に対する誇りと愛情をもち、地域社会の一員としての自覚を高めていくには、身近な社会的事象への見方・考え方を働かせ、地域の人々に親しみを抱き、自ら問いを追究していくことが必要である。また、地域教材を扱うにあたり、教職員がその地域のことを理解しなければ授業をすることはできない。そのためにも、副読本を活用してその地域について詳しくなる必要があると考える。

本単元は、交通や公共施設が整備され人口が増えたり、土地利用の様子が変わったりしてきたことについて調べ、時代が移り変わっていく中での市や人々の様子について考えるとともに、都市化や外国籍の人口の増加、少子高齢化などの市全体の変化の傾向について理解する。これらの学習内容を基に、未来の八街市がどのような市に発展してほしいかを考え、討論できるようにしていくことで、八街市の歴史に対する理解が深まり、八街市のこれからのにも関心をもち、関わり方を考えようとする態度を養うことができると考え、本実践を行った。

(2) 学習指導要領から

本実践は、学習指導要領第3学年の目標及び内容を受けて設定している。

目標(4)

社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考えが学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

内容(4)

ア(ア) 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。

(イ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。

イ(ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

これらの学習において、「小学校学習指導要領解説 社会編」では、市の様子の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、八街市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決することが大切とされている。これを実現するためには、これからの市の発展について考えようとする態度を高めていくことが重要である。

(3) 印教研社会科研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習 ～自ら課題を見いだし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

本実践では、印教研社会科の研究主題にもある、よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習を目指している。子供たちにとって身近である地元（八街市）を教材として取り上げる。八街市がどのように開拓されたのか、八街市の抱える問題は何かについて、家族や地域の方から話を聞いたり、開拓に活用した道具を見学や体験したりすることで、八街市について考えられるようにする。

この学習を通して、学習問題を主体的に解決しようとする態度やよりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚をもたせたい。

(4) 先行研究から

第68次印旛地区教育研究集会の四街道小学校 大石 良男教諭の実践「市の様子の理解を深める社会科学習の在り方～四街道市の土地利用の移り変わりを通して～」において、「市の様子を細分化し、各地域の移り変わりを調べながらマップを作ることで、市の移り変わりについて理解を深めることができた。」とある。このことから、現在の土地利用の仕方を正確に理解してから、昔の土地利用について捉えることで、市の歴史的背景に関心をもち学習に取り組むことができると考えた。

また、第69次印旛地区教育研究集会の朝陽小学校 山本 修平教諭の実践「社会的事象のその先に関心をもち、共創する力を培う社会科学習のあり方～3R単元サイクルを生かして～」において、「地域や家庭を巻き込んだ学習を行うことで、ごみ問題を自分事として捉え、これから先の学習にも生かされている」とある。このことから、学習協力者を活用して授業展開を行っていくことで、児童が進んで課題をもち解決する力を養うことができると考える。

(5) 児童の実態（3年1組30名）

本学級の児童は、社会科の学習が好きな児童が多い。理由として、「見学が楽しい」「調べてことをまとめるのが楽しい」などが挙げられる。児童は、実際に現地へ足を運び施設の方から直接話を聞いたり、見学したりすることに楽しさを見出している。自分の考えを伝えることができるかという質問には、9割ができると回答した。しかし、相手の考えを受け止められるかについては、4割しかできていない。この結果から、相手の考えを受け止め、自分の考えを深めていくことはできていないことが分かった。

八街市について知っていることを聞いてみると、「落花生」「畑」「スイカ」と3年生の「わたしたちのまち みんなのまち」で学習したにも関わらず、あまり定着はしていなかった。

「八街市がよりよくなるために、必要なものはなにか」という質問に対しては、「ゲームセンター」や「遊園地」といった、八街市でなくても楽しい施設を考える児童が多く、根拠が明確でない回答が見られ、自分達が楽しむことしか意識できていないことが分かった。また、「これからの八街市について考えようと思いますか」という質問に対しては、7割の児童が「考えていない」「なんとも思わない」「大人になったら考える」と発言していた。

以上のことを踏まえ、本主題を設定した。

3 主題について

(1) 本実践で目指す児童の姿について

児童の実態等を踏まえて、本実践で目指す児童の姿を以下の2点とした。

- ・問題を解決するために、児童が他者と積極的に関わりながら、多面的・多角的に考え、正しい社会認識を身に付けられる児童。
- ・これからの八街市がより良くなるためには何が必要か考えることができる児童。

4 教材について

本実践では、八街市の移り変わりについて取り上げる。

千葉県八街市のほとんどの地域は、明治期の開墾によって成された。歴史的な建物や文化など、存在はしているものの千葉県に指定されているものは1件のみである。しかし、郷土愛を高め、未来の八街市の繁栄を考えていく上では、より八街市のことを理解していく必要がある。

本実践においては、八街市はどのように移り変わってきたのかを知り、どのように私たちを取り巻く生活が変わってきたかを調べ、今後、自分たちはどのように関わっていくことができるかを考えさせたい。

5 研究の目標

第3学年の「市のうつりかわり」の単元（令和5年12月6日実践）において、児童が育った地域である八街市を教材化し、八街市の昔の様子と現在の様子を比較することで、どのように移り変わってきたかを捉えられるようにする。その際に、家庭で保護者から話を聞いたり、郷土資料館の方や昔から八街に住む方に話をしていただくことで、八街市を大切にする思いについて考えることができるようになり、進んで地域に関わったり、これからの八街市について考えたりしようとする意欲が高まることを実践を通して明らかにする。

6 研究の仮説及び手立て

仮説1

副読本の活用の仕方を知れば、より効果的な活用ができるだろう。

【手立て1】 年間指導計画の作成やワークテストの活用

副読本、年間指導計画やワークテストを一体化して作成して活用することで、社会科が苦手の職員でも同じように自信をもって授業を展開することができる。また一人一台タブレット端

末の導入に伴い、QRコードから多くの資料を確認することで、より多くのことが理解できる。さらに、ワークテストは八街市独自の問題を作成し取り組むことで、自分たちが住む市のことをより深く理解できているか確かめる。

【手立て2】 地域巡検を行い、教材を研究する。

長期休みには、市内の先生方と副読本に載っている場所を巡り教材開発を行う。そこで、見たり聞いたり体験したりしたことを精査し授業に臨むことで、よりよい発問や資料提示ができる。

仮説2

対話を通して地域社会の一員としての自覚を高め、他者の考えを取り入れ考えを再構築していくことで、より良い考えを見出すことができるだろう。

【手立て1】 課題設定と学習協力者との対話的な活動

昔の生活と今の生活を比較する。そうすることで、昔の様子について関心が低い児童も「昔はどのように生活していたのだろうか。」「どのように生活が変わってきたのだろうか。」とこれまでとこれからが気になるような導入を行うことで課題設定がしやすいと考えた。

また、児童が計画したことをもとに、電話やメール、昔から八街市に住む人や郷土資料館の学芸員の方から話を聞いたり、開拓に使った道具や昔の道具を持ってきていただいたりして、様々な学習協力者との対話的な活動を行う。そこで、気になった疑問を質問し解決する活動を通して知識を深めることができるのではないかと考えた。

【手立て2】 対話的な学びの場（共同編集アプリの活用）

まとめあげる際には、共同編集アプリを活用することで、班ごとに調べた内容を精査したり、お互いが調べた内容をもとに、さらに考えを深めたりすることができる考えた。また、関連する事柄を矢印で結びつける活動を行うことで、その理由を考えることで八街市がどのように移り変わったのか理解できるようにする。

7 単元計画 11時間

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準等（評価の観点・評価方法）
つかむ	1	・今と昔の様子を比較して、暮らしに変化があることに気づき、学習問題をつくる。 仮説1 手立て① むかしと今では、道具はどのようにかわってきたのだろうか。	・今と昔の様の移り変わりについて読み取り、学習計画を立て、解決の見通しをもっている。 （思考・判断・表現、ノート・発言）
調べる	2	・生活の道具がどのように変わってきたのか調べる。	・関係する人や施設の方から話を聞き、必要な情報を集め、時間の経過に伴い、移

		・八街市郷土資料館を見学し、生活の道具や暮らしの移り変わりについて調べる。	り変わったことを理解しようとしている。 (知識・技能、ノート)
たしかめる まとめる	1	・どのように生活の道具が変わってきたのか話し合い、年表にまとめる。 仮説1 手立て① 仮説2 手立て①	・今と昔の道具の違いに気づき、時間の経過とともに生活しやすいように道具が変化してきたことを考え、適切に表現している。 (思考・判断・表現、ノート)
		道具は、形を変え、より便利なものへとうつりかわってきた。	
つかむ	1	・八街市の土地利用の移り変わりについて話し合い、学習問題をつくる。	・市の移り変わりについて予想や学習問題を立て、解決の見通しをもっている。 (思考・判断・表現、ノート・発言)
		八街市は、どのようにかわってきただろうか。	
調べる	2	・八街市の交通、公共施設、人口の移り変わりや国際化について調べる。 ・昔から八街に住む方から話を聞き、暮らしの移り変わりについて調べる。 仮説1 手立て①	・必要な情報を集め、時間の経過に伴い、移り変わったことを理解しようとしている。 (知識・技能、ノート)
たしかめる まとめる	2	・これまでに調べてきたことを話し合い、年表にまとめる。 仮説1 手立て②	・交通や公共施設、土地利用や人口が変わったことを相互に関係付け、市の人々の様子の変化について考え、適切に表現している。 (思考・判断・表現、ノート・発言)
		時間とともに大きくかわり、人々が生活しやすくなった。	
広げる	2 (本時 1/ 2)	・学習したことをもとにして、八街市の人口が増加するためには、どうすればよいか考え発表する。 ・未来の八街市がどのようなになるか考え、ポスターにまとめる。	・学習したことをもとに、八街市の人口が増加していくための手立てを考え表現できる。 (思考・判断・表現、ノート・発言) ・これからの八街市の発展について市民としての意識をもち考えようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度、ノート・発言)

8 授業の実際と仮説の検証

仮説1

副読本の活用の仕方を知れば効果的な活用ができるだろう。

【手立て1】 年間指導計画の作成やワークテストの作成

全単元、副読本、年間指導計画やワークテストを一体化して作成することで社会科が苦手な職員でも同じように授業を展開することができた。また、どのタイミングでどの資料を提示するかを明確にすることで、子供たちに疑問をもたせたり解決したりするきっかけを与えることもできた。学習指導要領の改定に合わせて、副読本の内容を改定を行うことや一人一台タブレット端末の導入に伴い、QRコードから多くの資料を確認することで、より多くのことが理解することができた。さらに、ワークテストは八街市独自の問題を作成し取り組むことで、自分たちが住む市のことを理解できたか確かめることができた。

社会の授業に関する悩み

副読本活用の仕方を知ってから

A先生	副読本は教科書と違って、指導書がないから授業展開が難しい。	年間指導計画を確認すれば、授業展開、資料提示や教科書との併用の仕方を理解することができた。
B先生	その土地のことを詳しく理解していないから、子供からの質問に正確に答えることができない。	地域巡検を行い、八街の建物や歴史について研究を行うことによって理解が進んだ。また、授業では、学習協力者として来校してもらうことで、詳しく話を聞くことができ安心した。
C先生	資料提示の仕方やタイミングが分からない。	年間指導計画を活用することで、資料提示の仕方が分かった。また、QRコードで動画視聴することで、より詳しく情報を伝えることができた。

その他、9名中9名の先生が、副読本を活用することで授業展開しやすくなったと回答した。

【手立て2】 地域巡検を行い、教材を研究する。

長期休みには、市内の先生方と副読本に載っている場所を巡り教材開発を行った。教科書や副読本だけでは理解しにくい内容であっても、実際に現地を訪ねて、実物を見たり体験活動をしたりボランティアガイドの話を聞いたりすることで理解が深まり、地域の歴史や文化、特色を実際に見て感じ、よりよい発問や資料提示ができた。また、地理・歴史・公民などの知識を統合し、「なぜこうなっているのか」を現地で観察・考察し、疑問に思ったことを質問することを通して、多角的な視点を養うことができた。さらに、「事前の課題設定 → 調査 → 発表・振り返り」の流れで、巡検を行うことで、より深い探究的な学びの促進ができた。

毎年、20名近くの先生方が参加し教材研究に励んでいる。

仮説2

対話を通して地域社会の一員としての自覚を高め、他者の考えを取り入れ考えを再構築していくことで、より良い考えを見出すことができるだろう。

【手立て1】 課題設定と学習協力者との対話的な活動

T：今、みなさんが日常的に使っている物って何ですか。

C：ゲーム機、携帯電話、テレビ、洗濯機、水道

T：おかげで便利に生活できていますよね。これまでずっと同じような生活していたのかな。

C：ゲームや携帯電話は最近です。おばあちゃんが今は生活が楽だと言っていました。

T：なぜ昔は今のよう生活が便利でないのでしょうか。

C：洗濯は手洗いしていました。昔は電気がなかったと聞いたことがあります。

T：電気がなくて、夜はどのように生活していたのでしょうか。

C：暗くて何も見えないから早く寝ていたと思います。

T：電気はなくても、夜でもしっかり明かりはありましたよ。

C：何か燃やして明るくしていたんじゃないですか。毎日燃やしていたら、燃やすものもなくなりそうだし環境に悪いよ。昔でも何か明るくするための道具があったと思う。今、私たちが便利に使っている道具は、昔はどのようなものだったんだろう。

(学習設定と計画)

昔と今では、道具はどのように変わってきたんだろうか。	
調べたいことはなにか	どのように調べるか
昔の道具は今どのくらい使われているか	本、報に聞く
昔の電話はどんなものだろう	インターネット
道具はいつかわってきただろうか	教科書、読売本
く	く

普段、私たちが当たり前のように使っている道具は、最近できたものである。昔は今と比較すると便利ではなかった。昔の道具についての情報を伝えると、生活に活用していた昔の道具について、児童の興味、関心が高まった。児童が調べてみたいことや疑問点を話し合わせることで、他者の考えを取り入れて単元を貫く学習問題を設定することができた。また児童が現在もっている知識と関連させ、考えを交流することで、社会的な事象の変化について考えを深めることができた。

さらに、複数の学習協力者と関わり合いながら学習を進めることにより、児童は疑問に思っていることを質問して解決しようとしたり、新たな疑問を発見したりして追加調査をして学習に取り組むことができた。



どうやって熱をだしていたんだろう。
どのくらい熱が保たれるのか。
重くてアイロンがけするのに疲れそう。

なぜ鍬によって長さが違うのだろう。
なぜ真ん中に穴が開いているのだろう。
重いし腰が曲がるから疲れそう。



評価	評価基準	文例
A	昔の道具や八街市の様子に興味をもち、これまでの学習や自身の生活経験を根拠に、理由まで考えながら予想をすることができる。	・昔の洗濯は、たらいと洗濯板を使って行っていたと聞きました。生活を便利にするために、道具を新しくなっている。
B	昔の道具や八街市の様子に興味をもち、これまでの学習を根拠に予想することができる。	・クーラーがないときには、うちわを使って涼んでいたのではないかな。
C	予想が立てられない児童は、友達の考えを聞き、共感・納得したものを自分の意見として書くようにする。	・どのようにして、重さをはかっていたのだろうか。

評価	授業前 (%)	授業後 (%)
A	0	90
B	16	10
C	84	0

【手立て2】 対話的な学びの場（共同編集アプリの活用）

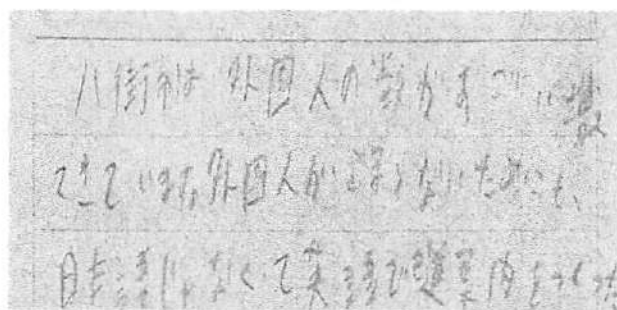
八街市がどのように移り変わってきたのか項目ごと（土地利用、交通、人口、公共施設）にまとめた。そこから、関連する事柄について話し合い、矢印で結びつける活動を行うことで、八街市の変化について社会的事象を関連付けながら考えることができる。どのように関連しているか思考することにより、様々なことが関連しあって八街市は移り変わっていることを理解することができる。

調べて分かった事実を整理し、関係する事柄を矢印で結びつけることで、八街市の変化について社会的事象を関連付けながら考えられた。

人口が増えていくと、バスや電車など移動手段が増えた。

お茶作りから始まって、落花生やすいかなど、土地にあったものが作られている。

単元の終末では、児童が考えた「未来の八街市」をもとに、八街市の課題をもう一度見つめ直し話し合うことで、これからの八街市の課題について捉え、これから自分たちはどのように生活していけばよいか考えることができた。



八街市のこれまでを理解し、これからどのようなことが望ましいか考えることができた。

評価	評価基準	文例
A	調べたことを年表や文にまとめ、時間の経過に伴い、市の様子が移り変わっていることを理解し、これからの市の様子についても活かすことができた。	「昔と比べ、人口がどんどん増えてきた。これからは外国人もどんどん増えていくから、困っている人がいたら声をかける。」
B	調べたことを年表や文にまとめ、時間の経過に伴い、市の様子が移り変わっていることを理解することができた。	「人口が増えると、働く場所や公共施設が増えてきた。」
C	調べたことを年表や文にまとめ、時間の経過に伴い、市の様子が移り変わっていることを理解することができない。	「昔は村だった。」 「昔はお茶作りをしていた。」

評価	授業前 (%)	授業後 (%)
A	0	16
B	6	84
C	94	0

9 成果と課題

(1) 成果

- 副読本を活用することで、より深い理解や興味を引き出す補助的な資料を提示することができ、興味・関心を高めることができた。
- 対話をすることで、低位の児童は考えを見出すことができた。また、上位の児童は他者の考えを取り入れ考えを再構築していくことで、より良い考えを見出すことができた。さらに、対話から八街市の良さに気づき、良さを活かしながら地域を発展させていこうとする考えをもつ児童も育った。
- 年表を作成して知識をつなげる活動を行うことで、人口の変化と市の移り変わりを関連付けて考える力を養うことができた。
- 教科書やインターネットで調べるだけでなく、地域の方や関係者の話を聞くことで、社会とつながりながらこれからの八街市について児童一人一人が考えることができた。

(2) 課題

- 副読本を活用することにより子供たちを引き付ける資料を提示することはできたが、1時間の中で扱う資料が多くなり、子供たちが話し合う時間が少なくなってしまった。
- 共有を毎時間行うことで、一人では調べ学習が進まない児童は友達の助けを借りながら思考をまとめられたが、自分で取り組み解決する力を伸ばす手立てを考える必要がある。
- まとめたことを児童同士の発表にとどめず、市役所へ提言を行う活動を取り入れた方が、子供たちがより八街市のためにできることを考えようとする意欲を高めることができた。

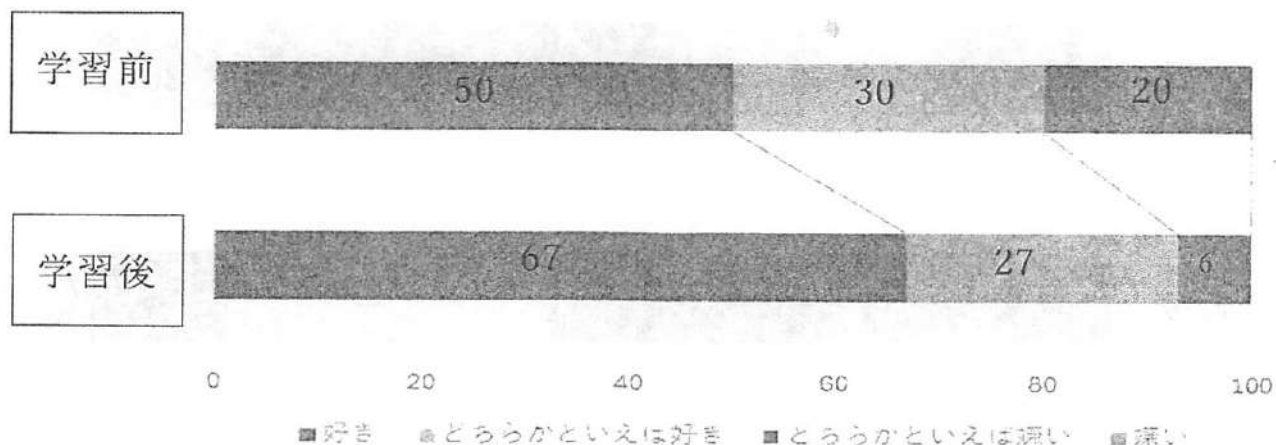
資料編

目次

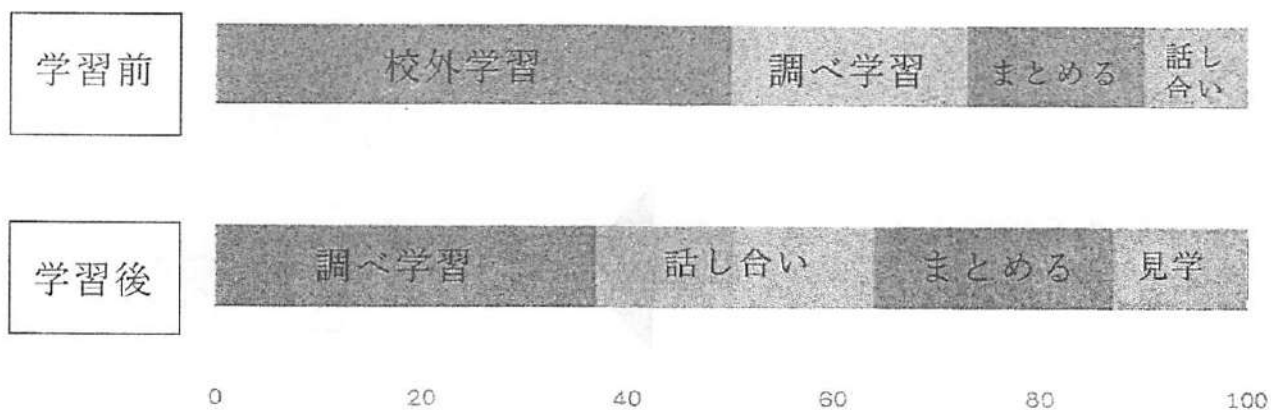
資料1	児童の実態	・・・P1～4
資料2	副読本の活用について	・・・P5～7
資料3	地域の一員として八街市について考えることができる・・・	P8
資料4	他者の考えを取り入れ考えを再構築することができる・・・	P9
資料5	学習過程で作成した表現物	・・・P10～13
資料6	外部講師との関わりについて	・・・P14
資料7	研究実践	
	単元名、単元の目標、指導観	・・・P15・16
○	研究体制と参考文献・資料	・・・P17

資料1 児童の実態

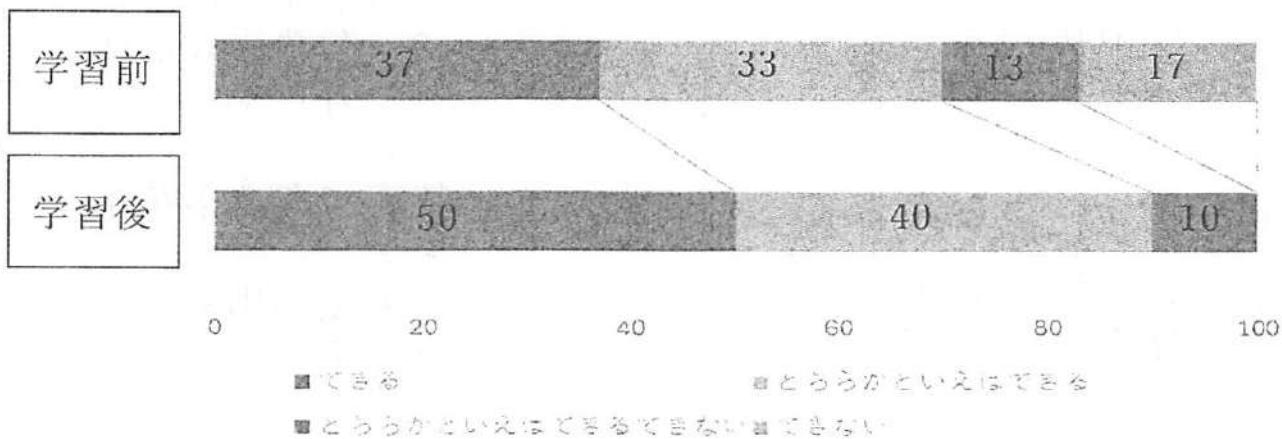
社会科は好きか



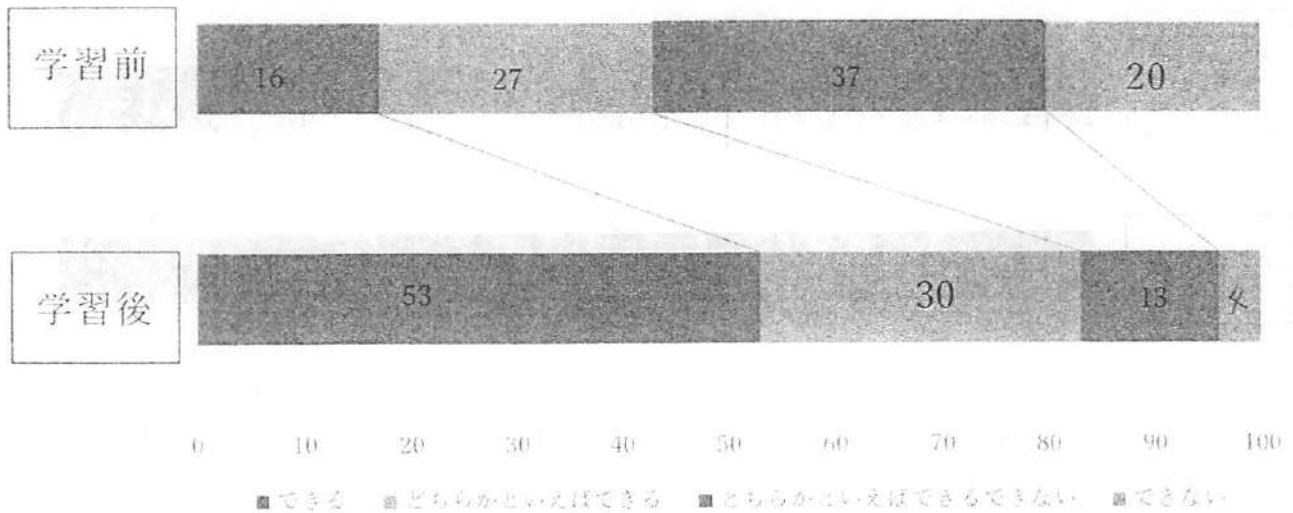
好きな理由は何ですか



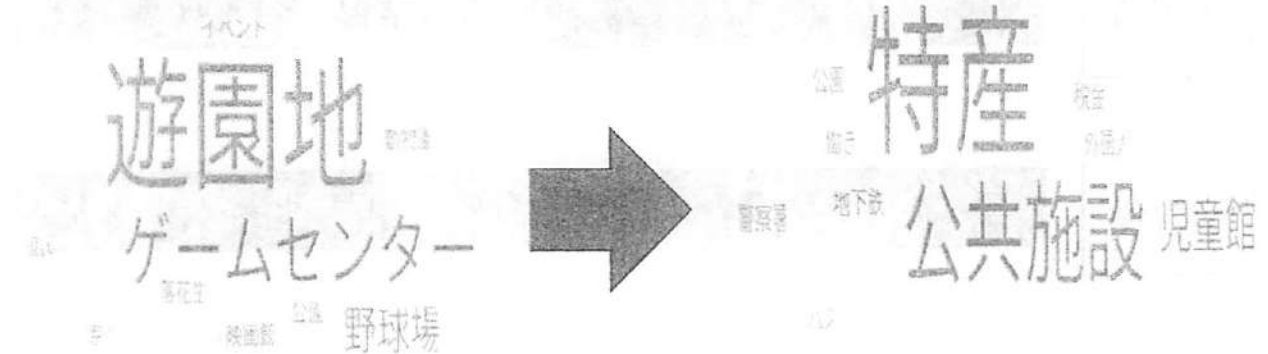
自分の考えを相手に伝えることができるか



友達の意見を受け止めて話し合えるか



○八街市がより良くなるためには何が必要だと思いますか



八街市でなくても楽しく、人が集まる施設が多い。

楽しいからと根拠が明確ではなく自分本位の考え。

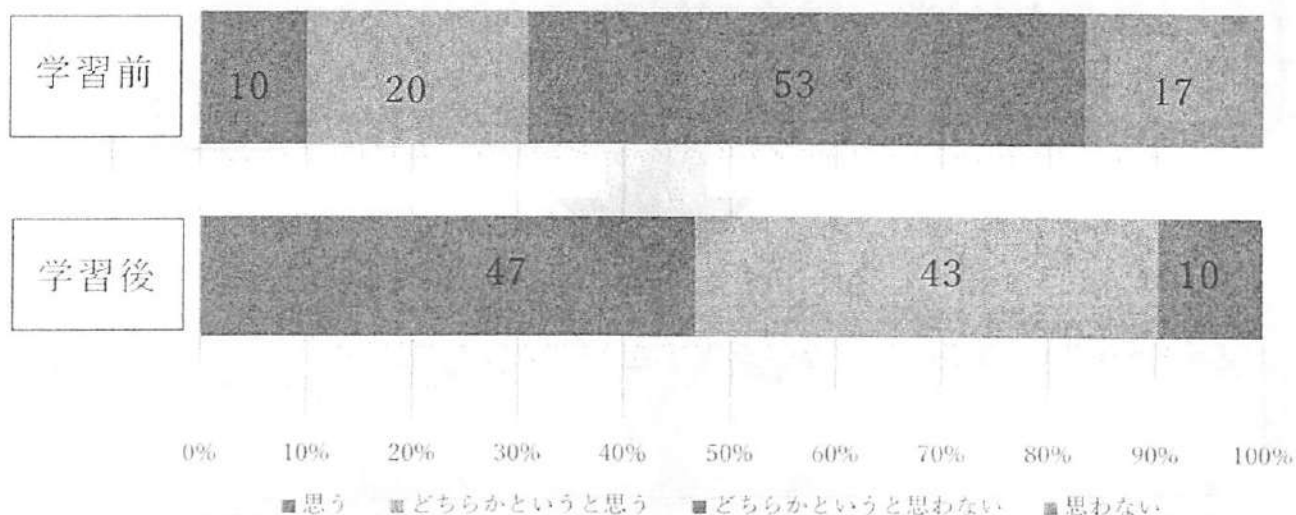
人口増加に伴って、公共施設が増えた方がよいとする考え。

特産である落花生をアピールした方が人気が出るという考え。

自ら課題を設定し、関心をもつことができたか

(1) 事前事後アンケートから (情意面の変容)

これからの八街市について考えようと思いますか。

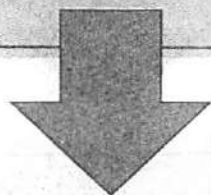


(2) 児童へのアンケートとノートの記事から (情意面の変容)

これからの八街市についてどのように思いますか。

A 児

なんとも思わないし、大人になったら考えろ。

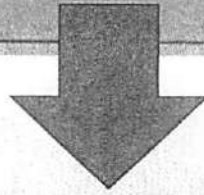


自分たちが住むまちの未来だから、今からできることをやらないといけない。

自分が住んでいる地域は、これまで住んできた人たちによってできたものだとし、これから自分たちにできることを考えようとしている。

B 児

すなほごりをどうにかしてほしい。

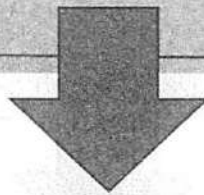


お年よりも外国人もすぐしやすいようにする。おちているゴキブリを

八街市の行く末を理解し、これからの八街市のためには何が必要か考えようとしている。

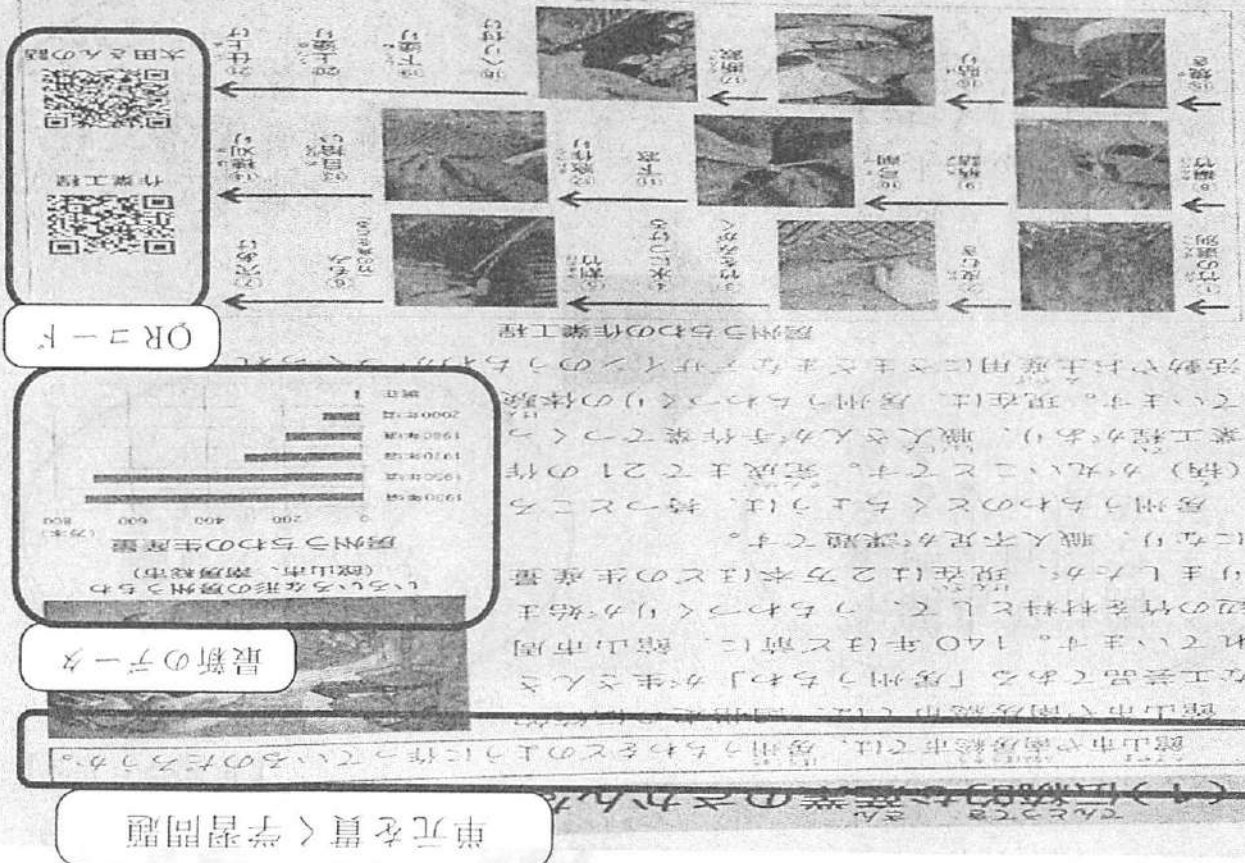
C 児

なんとも思っていない。

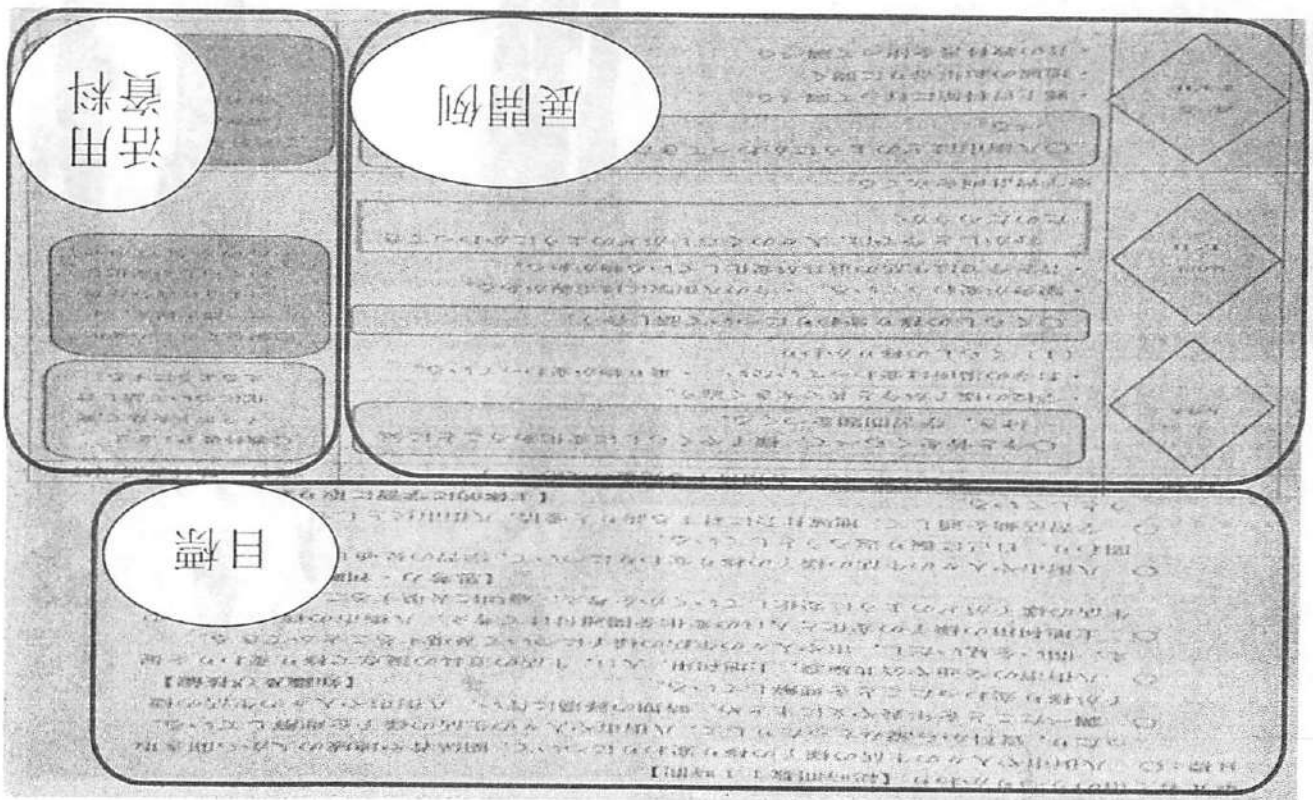


今のやちまたをつくらせてくれた人がいるから、それをまもっていかなければならない。

対話的な学習によって、これまでの八街市のことを理解し、これからの八街市のことを考えようとしている。

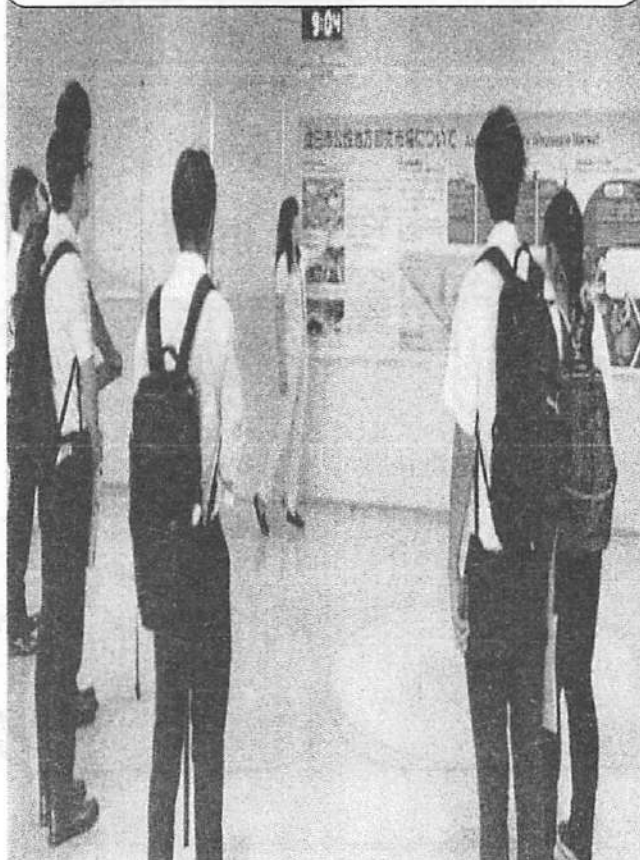


【副読本】



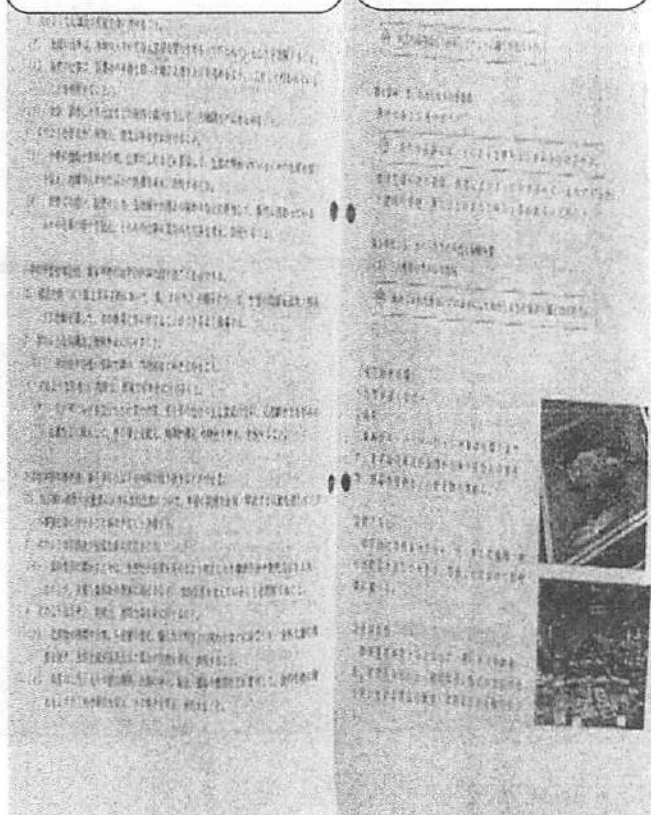
【地域巡検について】

ボランティアガイドによる説明



施設の概要・学習
指導要領との関わり

副読本との関わり



【先生方の感想】

どのように展
開していけば
よいか分から
ない。

年間指導計画
道理に展開で
きる安心感が
ある。

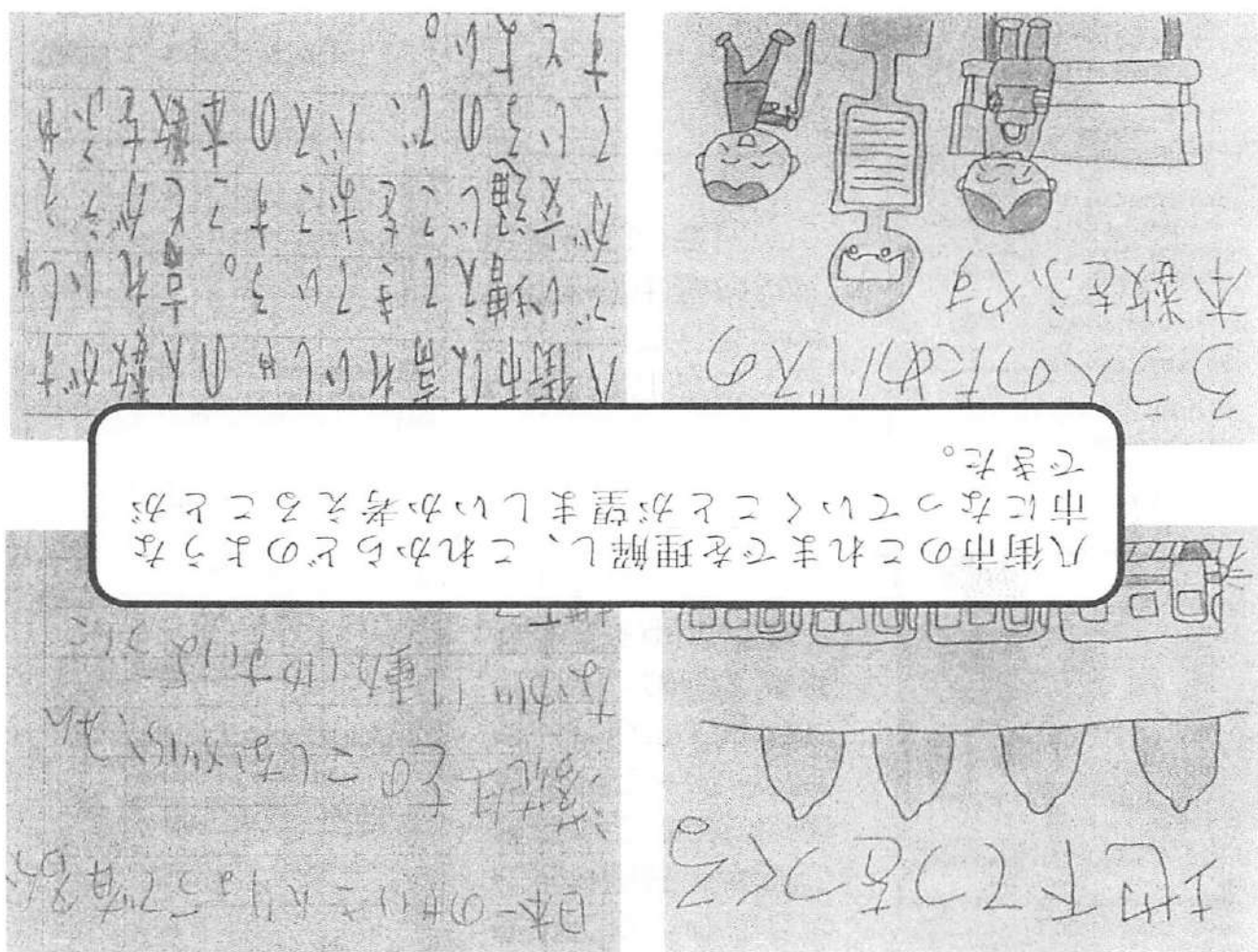
その土地につい
てあまり理解で
きていない。

地域人材は、
協力体制が取
れていて活用
しやすい。

「本誌編輯の趣意」を明確に出した「本誌の趣意」の欄は、77年7月号にも78年7月号にも存在した。

教科書改訂に沿って、ワークテストや年間指導計画の改定を行っている。

【未来の八街市についてのホムスターづくり】



資料5 学習過程で作成した表現物

○八街市の土地の高さ

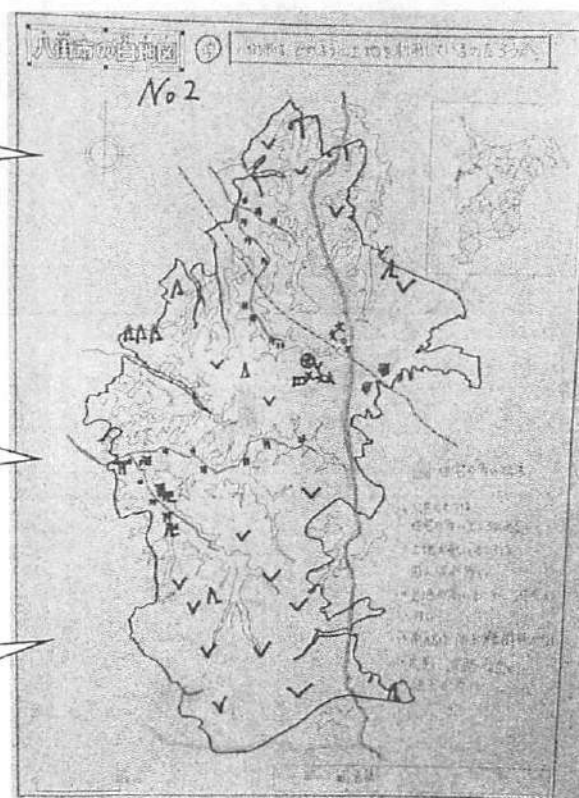


高い土地が多い。
高くても60m前後

川の近くは低い土地が多い。

平らな土地が広がっている。

○八街市の土地利用

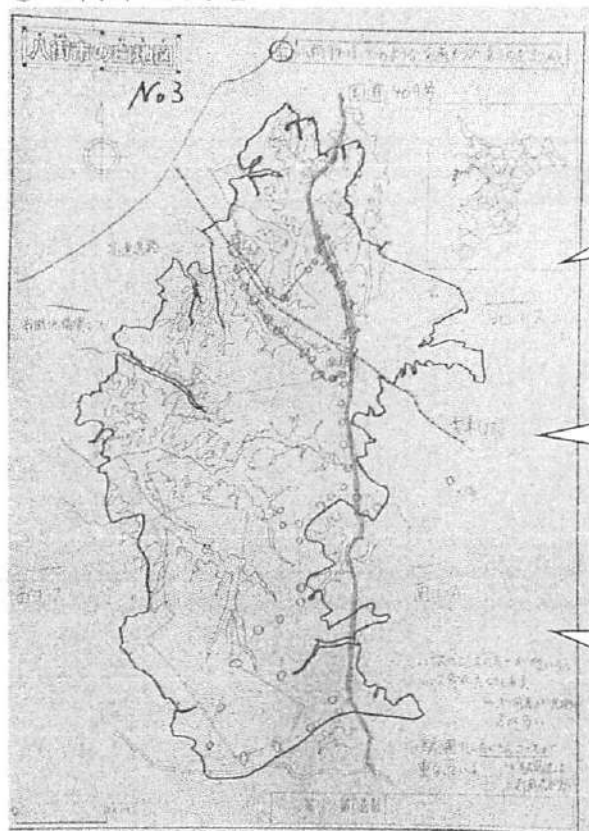


土地が広いところは、
田んぼが多い。

大きい道路の近くに
住宅が多い。
公共施設は、住宅が多
いところに多い。

南は、畑や針葉樹林が
多い。

○八街市の交通

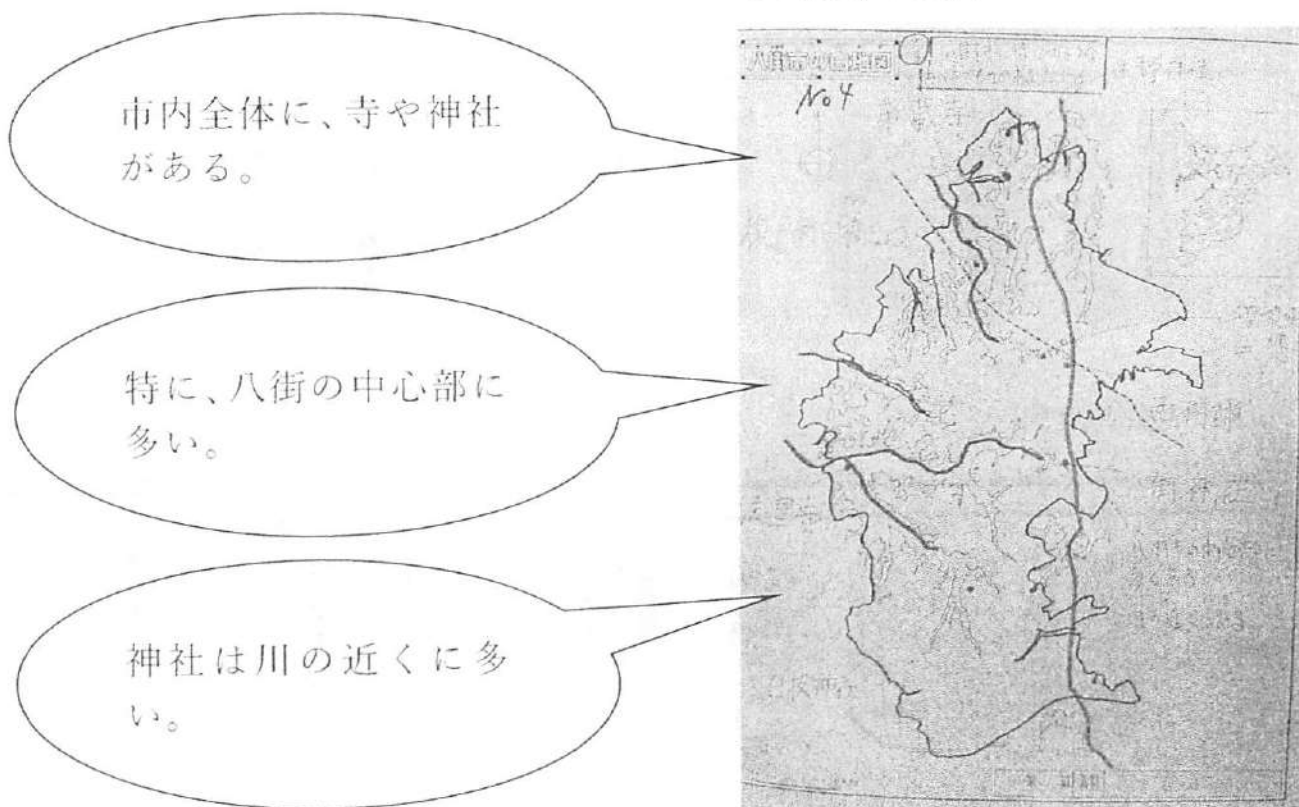


バスコースの長さは短いのに、バス停がたくさんある。

利用者は北側の方が多い。

駅の周りにたくさんコースが重なっている。

○八街市の建物



市内全体に、寺や神社がある。

特に、八街の中心部に多い。

神社は川の近くに多い。

○八街市の変化について

八街市の土地利用

1945	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990
八街の開闢が始まった。	お茶作りが始まった。	落花生作りが始まった。	落花生が生産量日本一になる。	工場ができた。	宅地がふえた。	畑がふえた。	すいか、にんじん、しょうがが県内最大の生産量になる。		

八街市の交通

1945	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990
八街駅ができた。	八街駅ができた。	八街駅ができた。	八街駅ができた。	八街駅ができた。	八街駅ができた。	八街駅ができた。	八街駅ができた。	八街駅ができた。	八街駅ができた。

八街市の人口

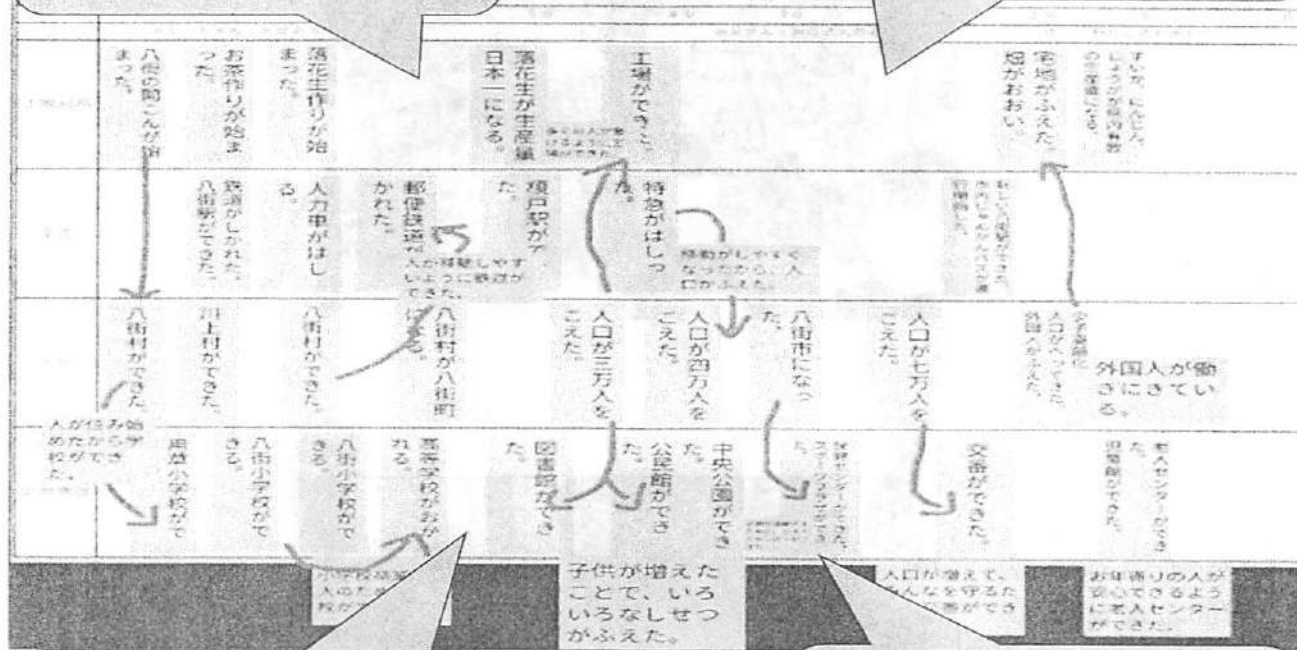
1945	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990
八街村ができた。	八街村ができた。	八街村ができた。	八街村が八街町になる。	人口が三万人をこえた。	人口が四万人をこえた。	人口が七万人をこえた。	八街市になった。	八街市になった。	八街市になった。

八街市の公共施設

1945	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990
八街小学校ができた。	八街小学校ができた。	八街小学校ができた。	八街小学校ができた。	八街小学校ができた。	八街小学校ができた。	八街小学校ができた。	八街小学校ができた。	八街小学校ができた。	八街小学校ができた。

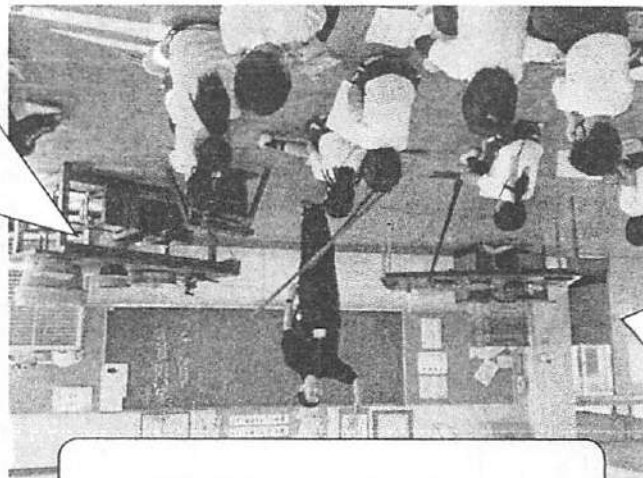
【A 班】

お茶作りから始まって、落花生やすいかなど、土地にあったものが作られている。



人口が増えると、公共施設や学校ができて生活しやすくなった。

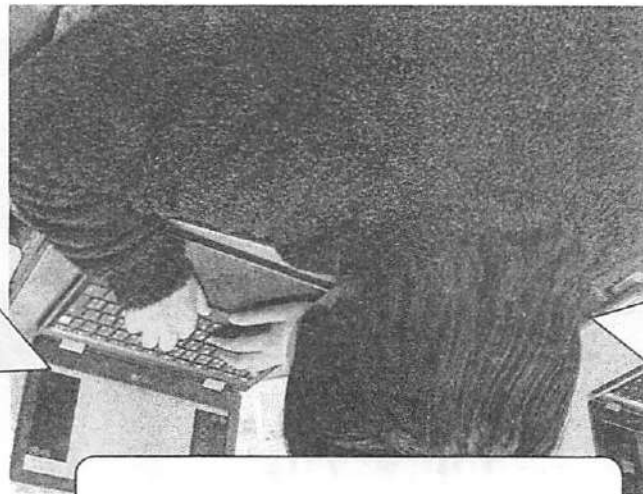
郷土資料館による出前授業



八街市は、かつて江戸幕府の放牧地で、馬が放牧され、年に一度「野馬捕り」という行事で馬を捕獲していました。

戦後初期は、水田や畑が広がる農村地域でした。1960年以降は、道路や鉄道の整備により、交通の便が良くなりました。

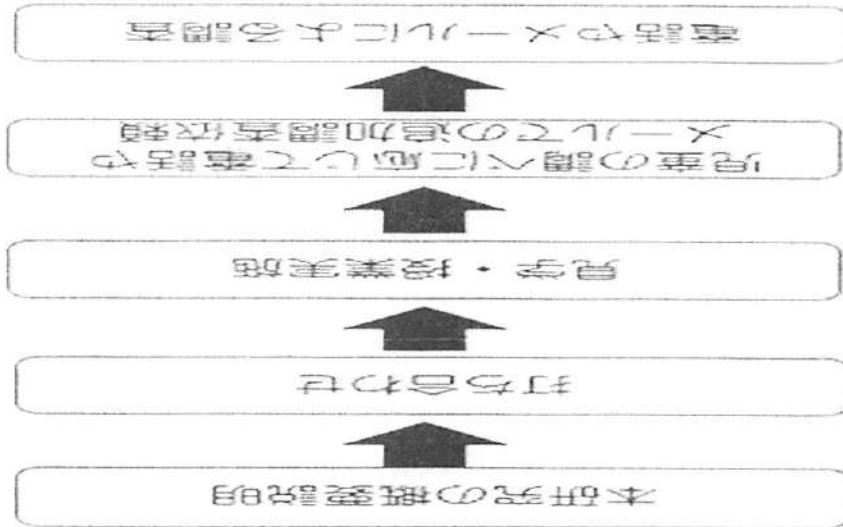
メール連絡による追加調査活動



八街市は、なぜお茶作りから落花生づくりに変えたんですか。

今は八街市だけど、なぜ昔は八街村なんですか。

○学習協力依頼までの流れ



資料7 研究実践

(1) 単元名 「市のうつりかわり」

(2) 単元の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
○八街市や人々の生活の様子の移り変わりについて、道具の変化や関係者や地域の人から聞き取ったり、資料から読み取ったりして、八街市や人々の生活の移り変わりの様子を理解することができる。	○道具の変化や八街市の交通や公共施設、土地利用、人口、生活の用具の視点で移り変わりを捉え、問いを見出し、市や人々の生活の様子について表現することができる。	○学習したことをもとに、これからの市の発展について、八街市民としての意識をもち考えようとしている。

(3) 指導観

より視点を明確にして調べたり、考えたりできるようにし、見通しをもって学習を進められるようにするために、単元を2サイクルに分ける。1サイクル目では、道具という具体物を通して、時間の移り変わりを捉えやすくさせる。2サイクル目では、副読本「わたしたちの八街市」、郷土資料館や市役所に保管されている資料を活用して、年代の異なる資料を比較させ、「交通、土地利用、人口、公共施設」の4つの視点からどのように八街市が変化してきたのか考えさせる。また、単元の後半でこれからの市のため自分にできることについて根拠を明確にし、考えさせるため以下のように学習過程を工夫していく。

「見出す」の過程では、1サイクル目は、昔と今の八街市の同じ場所の写真を比較する。そうすることにより、八街市は大きく変わってきたことを捉え、どのようにして変わってきたのか興味をもてるようにする。また、身近なものとして「道具」に着目させ、昔の道具の実物を用意して、実際に見たり触ったり、体験したりすることを通して、児童に疑問をもたせる。2サイクル目は、昔と今の八街市の同じ場所の土地利用の変化を比較する活動を通して、八街市は土地利用の他に、どのようなことが変化しているか考えをもたせる。

「調べる」の過程では、1サイクル目は、郷土資料館の方に出前授業をしていただき、見出すでもった疑問に対する質問をしたり、昔の生活の話を聞いたりすることを通して問題解決していく。2サイクル目は、今昔マップや郷土資料館から提供していただいた資料を活用して比較検討する活動を通して、昔から現在における市の変化を読み取っていく。八街市の変化について調べていく際には、事前に追究していく観点を明確にすることで、目的をもって教科書やインターネット、親に聞いたりメールで必要なことを諮問したりして調べ、工夫してまとめ、表現していく力をつけさせる。授業の終わりには、ノートに気づいた事や分かった事を自由に記述

させ、振り返りを行い、考えを深めさせる。

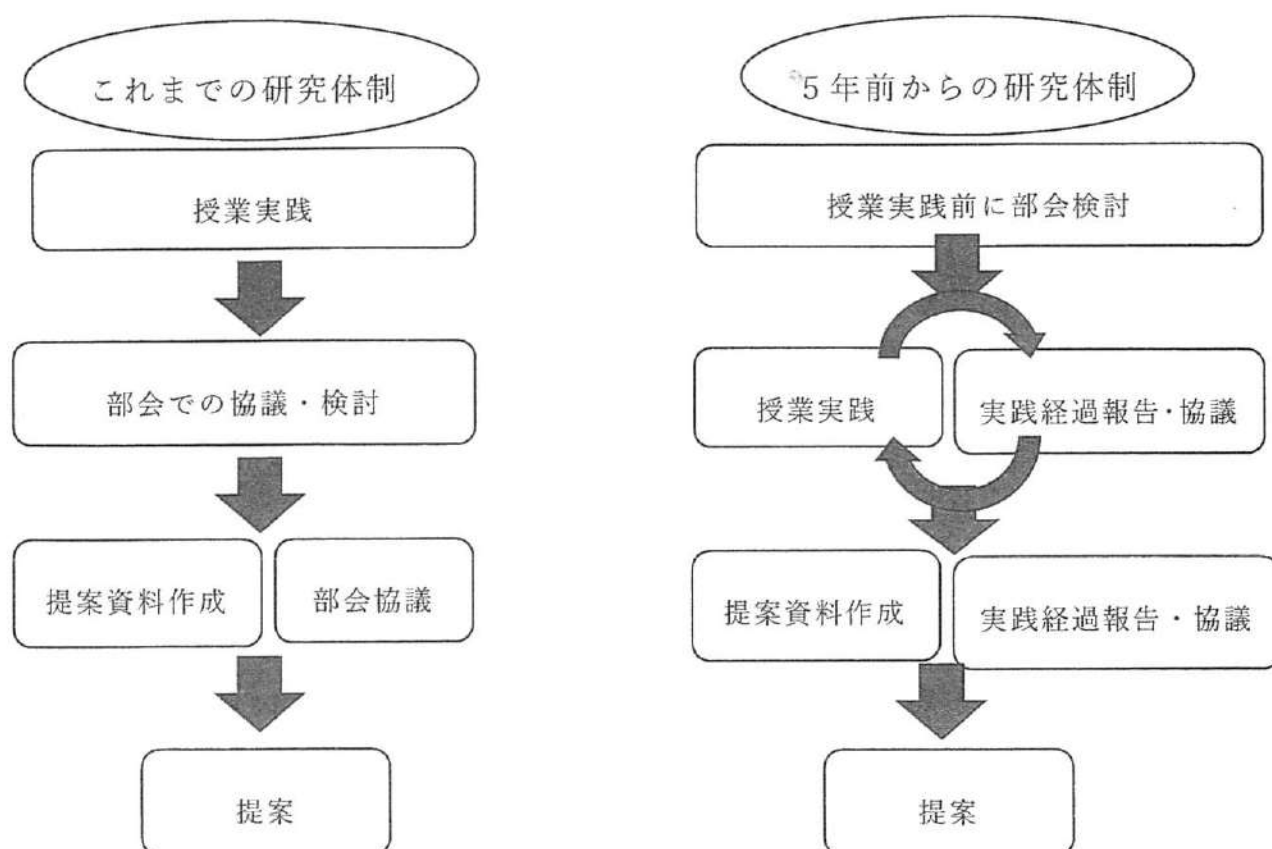
「深める・まとめあげる」の過程では、1・2サイクルともに、道具や八街市の移り変わりについて調べたことをまとめていく。その際に、学んだことを年表に整理して、時間の経過を意識しながら毎時間の学習で取り組めるようにする。年表内には、「道具、交通、土地利用、人口、公共施設」の視点を取り入れ、それぞれの事象のつながりについて自分の考えをもち、友達と話し合うことを通して、時間の経過にともなって変化してきたことを理解できるようにする。

「広げる」の過程では、これから八街市は人口減少や少子高齢化が進んでしまうことを捉える。その課題を克服するために、これから八街市が、どのようなになってほしいか、そのために市民としてどのように行動すればよいかなど、八街市の未来についてこれまでの学習を活かして考えられるようにする。互いに意見を出し話し合いことで、相手の考えを受け止め様々な視点から自分の考えを深められるようにしていく。

二つのサイクルを通して、人々の願いが人々の生活や市の様子を変化させてきたことを捉え、これからの八街市の発展について、八街市民としての意識をもち、考えを広げられるようにしていく。

○研究体制と参考文献・資料

第4部会社会科研究部 研究体制



授業実践前に指導案検討の時間を設けることで、より効果的な実践を組織で考えることができる。また、小中学校合同、社会科主任だけでなく、若手教員を含んだ大人数で取り組むことによって、様々な視点からの意見を聞くことができる。

実践中にも同様に協議を積み重ねながら取り組むことで、発問や資料についても検討することができた。

参考文献・資料

- ・小学校学習指導要領（平成二十九年度告示）解説 社会科編 文部科学省
- ・思考力・判断力・表現力等を鍛える新社会科の指導と評価（北 俊夫 明治図書）
- ・社会科学力をつくる知識の構造図（北 俊夫 明治図書）
- ・八街市ホームページ（<https://www.city.yachimata.lg.jp/>）
- ・写真にみる八街の150年